



「こんにちは 市長です」

6月10日号

市営住宅が人気で入りたくても入れない時代があった。新築の市営住宅ができると「何とかありませんか」「いやあ、抽選ですからどうにもなりませんよ。強運を祈るだけです」。議員をやっていた頃、そんな頼まれ事はよくあった。

富沢町の市営住宅は著名な設計家、故 内井昭蔵さんがあの広い敷地に 18 棟、291 戸をバランスよく配置、とにかく人気であった。地方都市で7階建てエレベーター付きの公営住宅は珍しかった。旧来は戸数を確保するために5階建て、新婚さん（若者たち）を想定して階段であった。4階建ては「子どもが生まれたら」という配慮があったのだろう。とにかく7階建てと4階建てをうまく調和させた美しいマンモス団地だった。想定人口千人くらいではなかったか。今は入居戸数179戸、空き部屋が112戸になっている。約40%が空き部屋、この30年で大きく変わってしまった。いつしか共益費が入居者に過重負担となり見直しをした。入居基準を緩和して生活弱者に借り手になってもらっている。ちなみに市営住宅全体ではどうか。全戸数は募集停止を除くと3003戸、空き戸数は719戸である。4分の1がお客さま待ちということになる。

まずは老朽化した住宅は壊す。コスト削減である。例えば、鳥之郷団地は集約して入居者には住み替えをしてもらい、約半分を更地にして民間に売却する。大原と三島団地も同じように集約し、空き地を売却する。その他の団地も計画的に改善していく。

もう一つは入居者の高齢化や孤立化にどう対応するかだ。集会室を高齢者や子どもたちのために「カフェ（食堂）」にしたり、空き部屋をカフェ用に改造したりがいいのではないかと検討している。国の補助金を利用しているので足かせはあるが時代に合う形を模索していきたい。